

1月27日

主教教会博士ヨハネ・クリソストム

Ιωάννης ὁ Χρυσόστομος

(347頃～407.9.14)

～四世紀の代表的教父～

＜人名事典などでの別表記：ヨーアンネース・クリュソストムス＞

ヨハネ・クリソストムはコンスタンティノポリスの主教で、4世紀を代表する教父の一人です。

彼はシリアのアンティオキアに生まれますが、父はクリソストムが幼い時に亡くなります。その後、彼の母は子どもの教育に力を尽くしていきます。

その期待に応え、クリソストムは神学や修辞学を学び、ギリシア哲学の素養を身につけて、また20歳の時にはすでに雄弁家として知られていきます。また早くから修道生活を志し、隠修士としての修業を積んでいきますが、病気となり、生まれ故郷に戻るようになります。

386年、アンティオキアで司祭となったクリソストムの説教は評判がよく、司教の右腕として活躍していきます。彼の説教は残されていき、のちの6世紀には黄金の口（金口）と呼ばれ、高く評価されていたそうです。

彼はアンティオキア派の伝統に従い、字句通りの聖書解釈を行いました。そして旧約・新約の主要部分について彼が説教の形でおこなった釈義を、主著としてまとめます。



「聖金口イオアン」

アギア・ソフィア大聖堂内のイコン

その説教の力は東ローマ帝国の皇帝と総理大臣にも伝わり、クリソストムはコンスタンティノポリスの主教となります。

ですが、アレクサンドリア派とアンティオキア派との教理論争に巻き込まれ、さらに首都の教会を立て直していくうちに、多数の敵をつくってしまいます。

そしてアレクサンドリアの主教テオフィロスは、サラミスの主教エピファニオスをそそのかし、403年のカルケドンで開かれた会議においてクリソストムを告発します。その告発の理由は異端であること、そして皇帝・皇妃への不敬というものでしたが、異端に関しては冤罪であったと言われます。

クリソストムは二度にわたって追放され、ポントスで衰弱死しますが、東方正教会では最も尊敬されている教父の一人です。

＜特禱＞

全能の神よ、あなたは主のしもべ、主教教会博士ヨハネ・クリソストムの教えによって公会を照らして下さいました。どうか天の恵みをもって公会をますます豊かにし、忠実な証びとを起して下さい。その生活と教えに倣い、わたしたちがすべての人に救いの真理を宣べ伝えることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン